



# 日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

## 特定非営利活動法人 日本防火技術者協会 平成17年度総会開催案内

NPO 法人日本防火技術者協会発足後、第3回となる平成17年度総会、を下記のごとく開催いたしますのでご案内いたします。なお、日本建築学会防火委員会の主催、当会後援のシンポジウムが当総会後に、開催予定です。多数の参加を期待しております。

記

日時 平成18年1月23日(月)  
13時～13時15分  
場所 東京理科大学森戸記念館  
議題内容《予定》  
1) 平成17年度活動報告  
2) 平成18年度活動計画報告  
3) 会計報告  
4) 監査報告  
5) その他

## シンポジウム 開催のお知らせ 「防火技術者」は 日本ではどうあるべきか？

建築基準法の性能規定化に伴い、日本においても防火関係の性能設計が進んでいる。その際に防火技術者が関与しながら計画を練ったり、実施設計を進めたり、性能評価などの申請用資料が作成されている。このように重要な業務を担っているが、その職能が確立しているとは言いがたい。防火委員会防火技術職能検討WGはその職能・倫理などについて検討を進めてきたが、広く識者の意見を聞く場を設けて、海外の例や行政関係者などの意見も求め、これからの「日本の防火技術者」のあり方を探りたい。

主催：日本建築学会 防火委員会  
後援：東京理科大学 COE  
NPO 法人日本防火技術者協会  
SFPE 日本支部  
日時：2006年1月23日(月)  
13:30～17:30  
会場：東京理科大学・森戸記念館  
(JRおよび地下鉄飯田橋駅下車)

内容：  
司会・主旨説明：富松太基(防火技術職能検討WG主査・日本設計)  
1. 日本の現状 佐藤博臣(日本防火技術者協会理事長・ERS)  
2. 海外では 関沢 愛(東京大学)  
3. 日本での地位は 中島秀男(明野設備研究所)  
4. 防火技術者に期待すること 川崎和夫(東京消防庁)  
5. 東京理科大学 COE と教育について 水野雅之(東京理科大学総合研究所)  
6. 討論  
まとめ 室崎益輝(防火委員長・独立行政法人消防研究所)

定員：40名  
参加費：会員 1,000円、登録メンバー 1,100円、会員外 1,500円、後援団体 1,200円、学生 800円 \*当日徴収  
申込方法：当日先着順  
(定員になり次第締切)  
問合せ：日本建築学会事務局  
研究事業部 浜田



SFPE・Jニュース  
(SFPE日本支部の活動第13号)

## SFPE 日本支部 2005年度総会開催案内

SFPE 日本支部の2005年度総会を下記のごとく同時開催いたしますのでご案内いたします。

記

日時 平成18年1月23日(月)  
13時15分～13時30分  
場所 東京理科大学森戸記念館  
議題内容《予定》  
1) 2005年度活動報告  
2) 2006年度活動計画報告  
3) その他

## JAFPE 教育WG/理科大 COE 教育フォーラム 開催結果概要報告

第2回を下記により開催しました。

日時 平成17年11月8日(火)  
場所 東京理科大学・森戸記念館  
内容  
・教育WG：17:30～18:30  
Fire Engineering Guidelines  
の輪読について

SFPEでは、ガイドラインの2<sup>nd</sup>バージョンの案が発表された。教育WGでは、主要部分の輪読を来年、3月より行うこととなりました。

・教育フォーラム：18:30～19:30  
講演会：田中英夫氏(東京消防庁・警防部特殊災害課課長)  
東京消防庁における隊員教育システム

## 教育WGの動向

教育フォーラムと同日に、第3回の教育WGを開催しました。教育コンテンツ整備を考えていく足がかりとして、SFPE本部から出版されているエンジニアリングガイド「性能に基づく防火分析及建築設計(SFPE Engineering Guide to Performance-Based Fire Protection Analysis and Design of Buildings)」の勉強会を行っていただくこととなりました。ご興味のある方の参加をお待ちしております。

## ケーススタディWGの動向

来年6月に開催されるシンポジウム(次欄の記事を参照)では、各国代表チームが同一の建物について火災安全性能設計ケーススタディを行ない、相互比較するワークショップが最終日に行われます。今回の建物は、超高層の高齢者施設(シルバーマンションとケアホームの複合施設)であり、人命安全の課題が建築設計の上でも重たくなるものを見込んでいます。

ケーススタディWGでは、(社)日本建築学会防火委員会性能設計WGとの共同で課題に取り組んでいます。水平避難方式とエレベーター避難を組み合わせた避難計画とし、消防隊の活動計画との連携を取りながら、在館者と消防隊員の双方の人命安全を確保するコンセプトです。これを実現するため、性能的火災安全工学の方法をふんだんに使った設計となるように、作業を進めています。



## S F P E 主催 シンポジウム開催 のお知らせ

### 第6回性能基準と

### 火災安全設計国際シンポジウム

6th International Conference on  
Performance-Based Codes and Fire  
Safety Design Methods

この度、米国に本部を置く S F P E ( 防火技術者協会 ) 主催の性能基準と性能設計シンポジウムが日本で開催されます。日時と開催場所は以下の通りです。今回は、ルクセンブルクで開催されました。

日時：2006年6月  
14日(水)～16日(金)  
場所：早稲田大学国際会議場、及び  
リーガロイヤルホテル東京

性能基準と火災安全性能設計方法に関する第1回の会議が1996年に持たれてから、多くの国において性能基準や性能設計法が発展してきています。しかしながら、これらのアプローチを使えるのは一般に高度なプロジェクトに限られていました。そして、性能に基づく設計が使われるプロジェクトの割合は各国間で異なります。

本シンポジウムでは、性能に基づく基準のアプローチと工学的設計方法で最新技術のものが紹介されます。新技術(よく働いたアプローチ)についての見通しと同様に働かなかったアプローチに関して発表されます。本シンポジウムは、日本で開催されます。日本では、多くの他の国よりかなり高度な基礎によって設計されるプロジェクト割合を持ちます(と思われる)。

この10年にわたり性能基準における先端技術・工学手法での設計に関する情報の場となるイベントとして、このシンポジウムは S F P E ミュニティできわめて高い評価を得ています。

シンポジウム開催案内及び参加登録方法が決まり次第、お知らせします。日本開催のチャンスを活かす上でも、多くの方の参加を期待しています。

## Journal of Fire Protection Engineering Vol.15 No.3 2005

FIERASystem: A Fire Risk Assessment Tool to Evaluate Fire Safety in Industrial Buildings and Large Spaces ( FIERA システム : 工場建築物および大空間の火災安全評

価のための火災リスクアセスメントツール ) , Noureddine Benichou, Ahmed H. Kashef, Irene Reid, George. V. Hadjisophocleous, David A. Torvi, and Gaetan Morinville

Evaluation of Models of Fully Developed Post-flashover Compartment Fires( フラッシュオーバー以後の盛期区画火災予測モデルの評価 ) , Morgan J. Hurley

A Network Fire Model for the Simulation of Fire Growth and Smoke Spread in Multiple Compartments with Complex Ventilation( 複雑な換気経路を伴う多数区画における火災拡大と煙伝播シミュレーションのためのネットワーク火災モデル ) , Jason E. Floyd, Sean P. Hunt, Fred W. Williams, and Patricia A. Tatem

## Journal of Fire Protection Engineering Vol. 15 No. 4, 2005.

A Quadrangular Shell Finite Element for Concrete and Steel Structures Subjected to Fire( 火災を受けるコンクリートおよび鋼構造のための四辺形高次有限要素 ) , D. Talamona and J. -M. Franssen.  
Characterization of Candle Flames, A. Hamins, M. Bundy and S. E. Dillon.

A Performance-based Egress Analysis of a Hotel Building using Two Models ( 2種類のモデルを用いたホテル建物の性能に基づく避難分析 ) , E. D. Kuligowski and J. A. Milke.

## Fire Protection Engineering Spring 2005 No.26

Fire Protection Engineering Economics ( 防火工学の経済学 ) , John M. Watts, Jr. and G. Ramachandran.  
The Economics of Automatic Fire Sprinklers ( 自動スプリンクラー設備の経済学 ) , Stacy N. Welch.

Fire Safety Meets Economics 101 - How Chicago Achieved Balance in

Its High-Rise Building Ordinance( 火災安全と経済学の出会い 101、超高層建築物の法令にシカゴはどのようにバランスを取ったか? ) , Carl F. Baldassarra.

## Fire Protection Engineering Fall 2005 No.28

The World Trade Center Evacuation An Analysis of Human Behavior During Evacuation, ( ワールドトレードセンターの避難、避難時の人間行動の分析 ) E. R. Galea.

What a User Should Know When Selecting an Evacuation Model, ( 避難モデルを選択するときにユーザーは何を知るべきか? ) E. D. Kuligowski and S. M. V. Gwynne.  
Protected Elevators and the Disabled, Richard Bukowski.

Tenability Analyses in Performance-Based Design, ( 性能設計における滞在限界分析 ) James A. Milke, Diana E. Hugue, Bryan L. Hoskins, and James P. Carroll.

Mass Notifications Systems, ( 大規模通報システム ) NEMA.

## SFPE TODAY SEPTEMBER-OCTOBER 2005

SFPE Engineering Guide to Performance-Based Fire Protection Analysis and Design of Buildings レビューとコメントの募集

SFPE アワード 各賞受賞者の紹介

### 理事会等の開催結果

理事会を以下の日に実施しました。  
8月11日(木)、10月28日(金)  
12月13日(水)

### ホームページ開設中

NPO 法人日本防火技術者協会のホームページを開設中。

URL は、<http://www.jafpe.or.jp> です。

SFPE 本部のホームページもご利用下さい。URL は、<http://www.sfpe.org/> です。